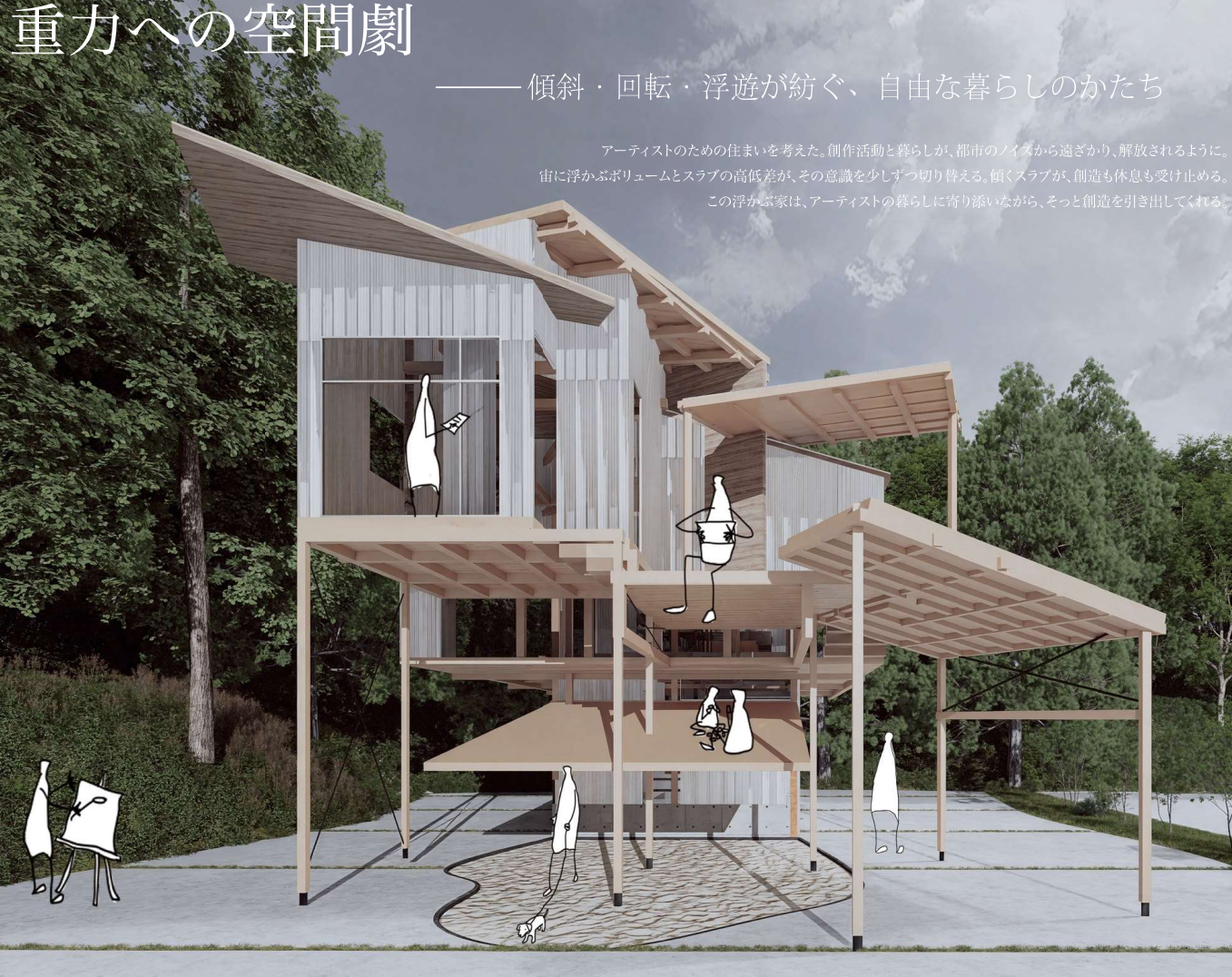


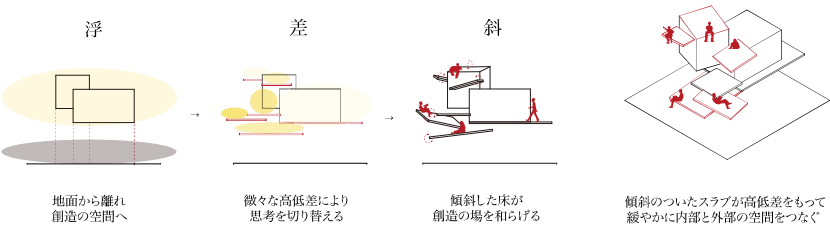
重力への空間劇

—— 傾斜・回転・浮遊が紡ぐ、自由な暮らしのかたち

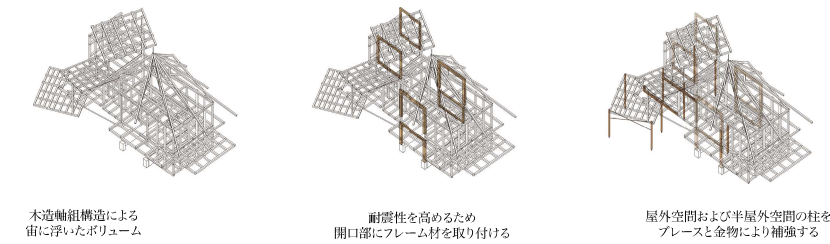
アーティストのための住まいを考えた。創作活動と暮らしが、都市のノイズから遠ざかり、解放されるように。宙に浮かぶボリュームとスラブの高低差が、その意識を少しずつ切り替える。傾くスラブが、創造も休息も受け止める。この浮かせ家は、アーティストの暮らしに寄り添いながら、そっと創造を引き出してくれる。



地面から離れた創造と休息の場

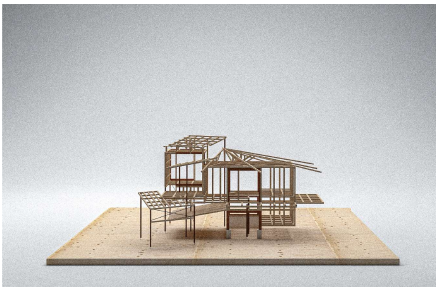


浮かせるための構造設計プロセス

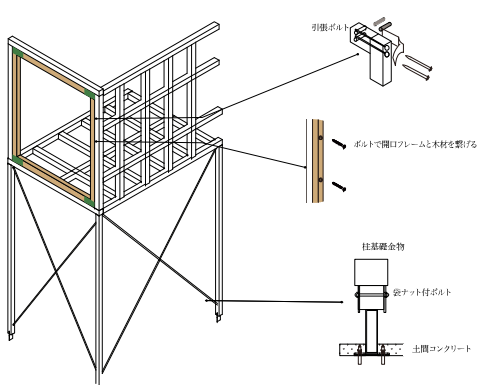


軒に包まれ緑を望む

地上3メートルの高さに設けられたベランダが、リビングをぐるりと取り囲む。宙に浮かぶこの軒下空間は、瀬戸内の穏やかな気候の中で周囲の緑を望む癒しの空間となる。

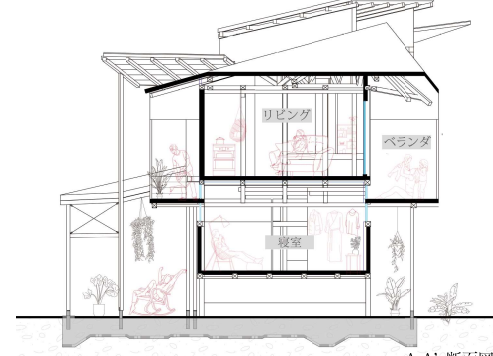


開口フレーム材補強による浮遊構造の安定化



2階では屋外と半屋外空間の接続部に設けられた開口フレーム材により、構造的安定性が高められる。1階部分にも金物による基礎の補強を施し、空間の交錯や傾斜による遊び心を保ちながら、全体の構造的安定性を確保する。

傾く屋根がつなぐ内と外



宙に浮かぶ寝室とリビングは、1階と2階の間に設けたガラス部分から陽光を取り込み、視覚的に空中に浮かんでいるような印象を与える。外へと伸びる廊下は、さまざまな方向から周囲に溶け込むように設計した。

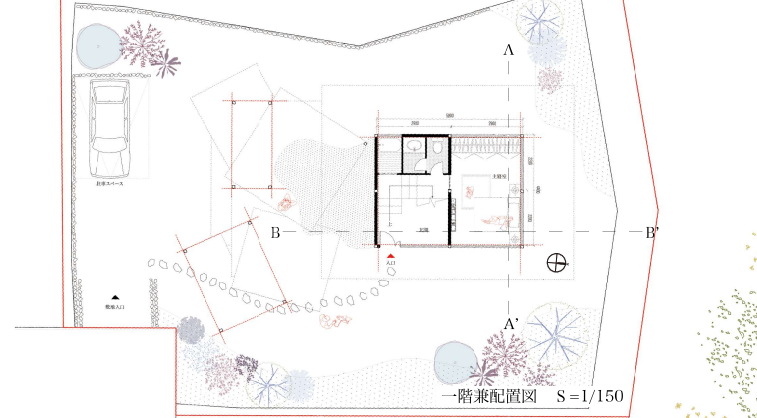


生活エリアからスタジオへの視線

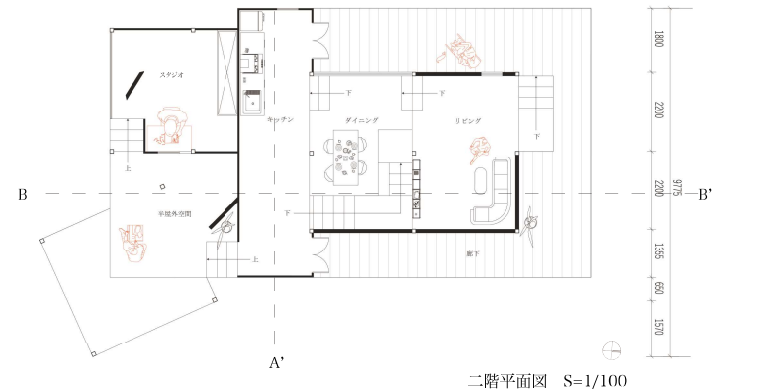


スタジオから居住スペースを望む。高低差によって、思考が切り替わる。

浮遊感を誘う螺旋の軌跡



玄関を入るとすぐに現れる階段で、浴室やトイレ、寝室を横目に上へと登っていく。螺旋状に上昇していくこの身体的な体験は、周囲の風景の変化を徐々に感じさせるとともに、まるで宙に浮かんでいるかのような感覚を生み出す。



アーティストの個人的な作業空間と生活空間は、ゆるやかに分節され、室内と屋外は連続的につながっている。回転しながら浮遊するように構成された内外の空間には、さらに勾配屋根が架けられている。この屋根は単なる覆いではなく、傾斜した面が床としても機能し、登ったり、回ったり、遊んだり、休んだりする中で、人々に新たな重力の変化を体感させる。



傾斜を持った床がくつろぎをもち、高低差によって多様なアクティビティを誘発する。

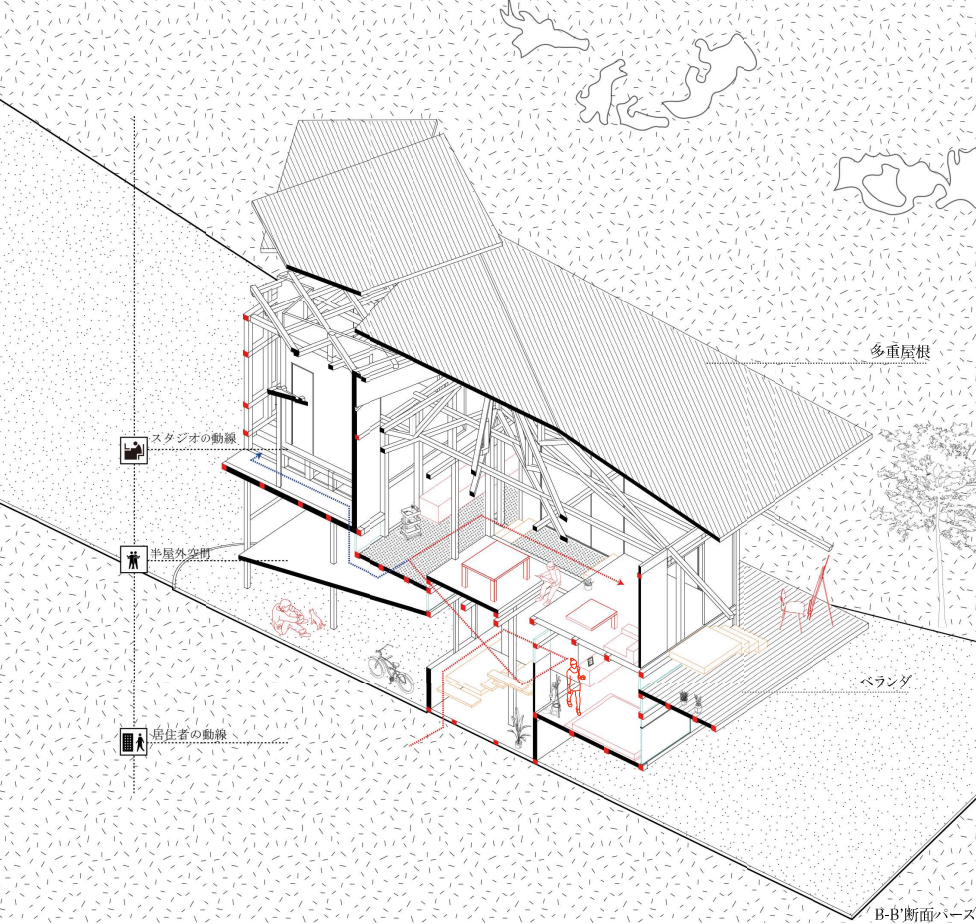


敷地図

敷地は1番北西の22を選定。南東に接道からのアプローチを持ち、北西は木々へと開けている。東には既存の住宅、南には同プロジェクトによる建築が建つ予定となっている敷地。

敷地面積表 (m ²)	
敷地面積	341.63
建築面積	137.13
1階床面積	25.63
2階床面積	111.5
延べ床面積	137.13

循環する動線が紡ぐ日常



生活空間と仕事空間は、明確に分離されつつも、同時に密接なつながりを持っている。その間の動線では、生活・仕事・娯楽といった要素が循環するように配置されており、その流れの中で、周辺環境との対話が生まれる。こうした構成によって、日々の暮らしには遊び心が添えられ、ストーリー性のある豊かな居住体験が実現されていく。